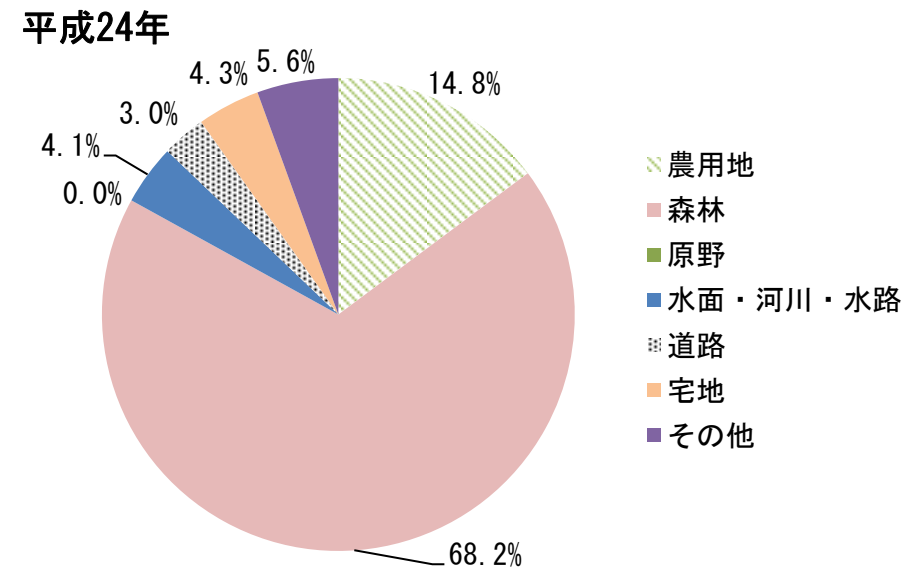


1. 庁内検討委員会の開催状況

- これまで・・・
- ◆第1回～第3回（5月～7月）
⇒ 基礎調査・分析・評価
（土地利用転換の実態把握、課題の整理等）
- これから・・・
- ◆第4回～第6回（8月～10月）
⇒ 分析・評価、素案作成
 - ◆第7回～第8回（11月～12月）
⇒ 素案修正、計画案作成

2. 土地利用転換の実態把握 （1）長井市の土地利用の現況

- 【現況】
- ・「森林」が占める割合が68.2%であり、最も高い割合となっている。
 - ・次いで、「農用地」が14.8%であり、他項目は3%～5.6%の土地利用となっている。ただし、「原野」は対象なしとなっている。
 - ・「森林」「農用地」の項目で83%を占めることから、当市は農村的土地利用を中心とする地域といえる。
- ※土地利用区分について
- 国土交通省が定めるルールにより、利用形態による区分や面積の算出方法が決まっている。主な区分の内容は次のとおり。
- ・農用地…田や畑として利用している土地。耕作放棄地、農道、水路は含まない。
 - ・水面等…ダムや河川、ため池、農業用排水路として利用している土地。
 - ・宅地……住宅地、工業用地、商業施設等のその他の宅地として利用している土地。
 - ・その他…公共施設、造成中の土地、耕作放棄地等。他の区分に属さない土地。



2. 土地利用転換の実態把握 （2）土地利用区分ごとの推移と理由

(単位: ha)

	平成11年	平成24年	増減
農用地	3,318	3,178	△ 140
森林	14,648	14,646	△ 2
原野	195	0	△ 195
水面・河川・水路	745	884	139
道路	589	645	56
宅地	848	923	75
その他	1,126	1,193	67
合 計	21,469	21,469	0

- 【推移の状況】
- ・「農用地」「森林」「原野」が減少し、「水面等」「道路」「宅地」「その他」が増加した。
- 【主な理由】
- ・農業者の高齢化による担い手不足等により、農地を手放す状況が増えた。
 - ・国県市の道路整備が進んだ一方で、農地が道路用地となって減少した。
 - ・長井ダムの建設により、水面が大きく増加した。
 - ・市街地周辺（舟場、緑町、中道、館町南、今泉等）で一般住宅や集合住宅の建設により宅地が増加した。
 - ・市街地南部（館町南）で商業施設の立地が進んだ。

2. 土地利用転換の実態把握 （3）地域区分ごとの推移

